

日本初、スペイン^{かんぞう}甘草の新品種「新日本製薬 GG01」を品種登録 ～大学との共同研究により、スペイン甘草の実用栽培を可能に～

新日本製薬 株式会社（本社：福岡市、代表取締役社長 CEO：後藤孝洋）は、従来のスペインカンゾウと比べ、草丈が高く、根の収穫量が多い等で区別性のあるスペイン甘草「新日本製薬 GG01」を大阪医科薬科大学と共同研究し、日本で初めてスペイン甘草の新品種として登録されましたのでお知らせいたします。



スペイン甘草 新品種「新日本製薬 GG01」

【スペイン甘草 新品種「新日本製薬 GG01」の特長】

- 日本薬局方に規定されたグリチルリチン酸含有基準値 2.0%へ到達が可能
- 植栽から1年半という短期間で、多量の収穫が可能

従来のスペインカンゾウは生育旺盛で育てやすい薬用植物ですが、主要成分であるグリチルリチン酸含量が、医薬品の規格基準書の日本薬局方にある基準値 2.0%になるまでに、長い生育期間（3年以上）が必要という課題がありました。当社が開発したスペイン甘草「新日本製薬 GG01」は、基準値へ到達可能な品種であることに加え、従来のスペインカンゾウの生育期間と比べ、植栽から1年半という短期間で多量の収穫ができるという2つの特長があります。

【スペイン甘草 新品種「新日本製薬 GG01」に期待される機能性】

- 抗炎症作用、美白効果（ビューティー領域）
- 内臓脂肪の減少、筋肉量の増加（ヘルスケア領域）

【品種登録 概要】

登録番号 : 29026

農林水産植物の種類 : *Glycyrrhiza glabra* L.

登録品種の名称 : 新日本製薬 GG01

【甘草とは】

マメ科カンゾウ属植物の根とストロン（地下茎）を原料とした、漢方処方約 70% に配合される生薬です。世界では 18 種のカンゾウ属植物が知られていますが、日本では「*Glycyrrhiza uralensis*（ウラルカンゾウ）」と「*Glycyrrhiza glabra*（スペインカンゾウ）」の 2 種が日本薬局方に収載されています。紀元前から、根とストロン（地下茎）を乾燥させ生薬として用いられており、近年では医薬品だけでなく、食品や化粧品原料としても幅広く利用されています。

【品種登録の背景】

当社は、多様化するお客さまのニーズに寄り添い、スマートで新しいライフスタイルを提案するため、効率的なケアの方法を開発する必要があると考え、スマート“ライフ”サイエンスという方針のもと研究開発を行っております。特に、機能性が高く独自性のある新素材の開発に力を入れています。

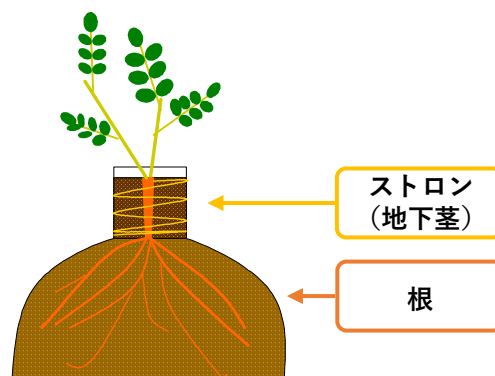
そこで、私たちはグリチルリチン酸を主要成分とし、鎮痛・抗炎症等の薬効をもつ「甘草」に着目しました。「甘草」は、日本で流通している 315 品目の生薬のうち、最も多く使用されています※。しかし、日本に流通している生薬は、約 8 割が中国からの輸入であり、日本産はわずか約 1 割です※。近年、中国において生薬の輸出規制に伴う価格高騰が見られ、中国への依存が問題視されています。

このような背景のもと、美と健康に有用とされる「甘草」の商品への活用と日本での実用栽培化の 2 つを目的として、日本薬局方に収載されている 2 種の甘草のうち、生育旺盛で育てやすい「スペインカンゾウ」に注目。2008 年に研究を開始し、約 14 年間の取り組みを経て 2022 年 3 月に新品種として登録されました。

※ 参考文献：「原料生薬使用量等調査報告（2）」生薬学雑誌 75(2), 89-105(2021)

【栽培方法】

生薬として用いられる“根”を肥大化させるため、ストロン（地下茎）の成長を抑制する「ストロン抑制短筒栽培法」を採用。「ストロン抑制短筒栽培法」は当社が開発したカンゾウ属植物の栽培方法であり、2014 年に特許（特許第 5635714 号）を取得しています。



【今後の方針】

当社は、経営理念に掲げる「お客さまには最高の満足と信頼を」を実現すべく、本開発素材を商品へ活用し効果を実感いただける商品をお届けするとともに、今後も機能性が高く独自性のある新素材の開発に取り組んでまいります。

本件に関するお問い合わせ先

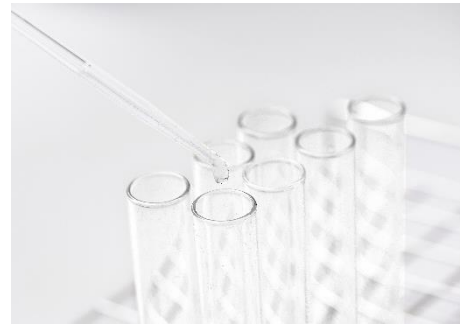
新日本製薬 株式会社 経営推進室 広報担当

TEL：092-303-8318(直通) FAX：092-720-5819

E-mail：pr@shinnihonseiyaku.co.jp URL：<https://corporate.shinnihonseiyaku.co.jp/>

【新日本製薬の研究開発について】

当社の研究開発は、“効果を実感でき、満足していただける商品をお客さまへお届けしたい”という思いから始まりました。これまで当社では、「コラーゲンインコラーゲン」の発想で設計された「集中保湿コラーゲン」や、細胞膜の構成成分であるリン脂質とコラーゲンを結合させた「プロテクトコラーゲン」などを開発し、商品に活用してまいりました。2020年7月には、ビタミンCとコラーゲンを結合させた「VCコラーゲン」を開発し、製造方法の特許を取得しています。今後も、美と健康の領域においてお客さまのお悩みを解決するために、新素材の開発と生体バリアの研究を強みとして、大学やパートナー企業との共同研究を推進してまいります。



【用語解説】

(1) 日本薬局方

医薬品の性状及び品質の適正を図るため、厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて定めた医薬品の規格基準書。

(2) 薬用植物

薬用に用いる植物の総称。植物のなかで、全体あるいはその一部分が人や他の動物に対してなんらかの薬効を有するもの、あるいは有するとの考えから使用されるもの。

(3) 生薬

薬用植物のうち、薬にする部分をそのままあるいは乾燥したもの。

※ 「甘草」・「カンゾウ」表記の違いについて、生薬を意味する場合は漢字で「甘草」、植物名を意味する場合はカタカナで「カンゾウ」としております。

※ 当リリースは薬機法等諸法規に基づくものではありません。